



2016年5月1日 発行:ファイバーリサイクルセンター

ファイバーリサイクル通信について

これまで、ファイバーリサイクルセンターから年に1度【ゆう*あい通信】をお送りしていましたが、今後は会員の皆様には【ファイバーリサイクル通信】を年4回お届けすることになりました。

- ・賛助会員の皆様へ。名称を「ファイバーリサイクルを支える会会員」としていましたが、4月から「ファイバーリサイクル賛助会員」という名称にさせていただきます。会費等はこれまでと変わりません。
- ・今回の通信は、賛助会員の皆様だけでなく、これまで衣類をお送りいただいた皆様にもお届けしています。これを機会にぜひ賛助会員になっていただき、これからもファイバーリサイクルを共に支えていただけますようよろしくお願いいたします。

今回のファイバーリサイクル通信の内容

今回案内していること	ページ
ファイバーリサイクルセンター長の清水清子さんに聞く	2~3
アル・カイル アカデミーとパキスタンについて GCかごしま副理事長川上由美子さんに聞く	4~5
ゆう*あいショップ訪問 ・GCふくおか藤崎店	6
衣類の送り方案内	7
お送りいただいた衣類の量など ゆう*あいショップの案内 賛助会員の申し込み方法、ほか	8

通信の今後の掲載予定

- ①ファイバーリサイクルとはどんな取り組みなのか。
- ・国境を越えた子育て支援として
 - ・リサイクル運動として

- ・生活困窮者の自立支援に向けた就労訓練の場として
- ②ファイバーリサイクルの現状
 - ・センターに届いてからの流れ
 - ・パキスタンへの送り出し作業
 - ・送られてくる量、累計量
 - ・パキスタンに送り出した量
- ③ゆう*あいショップの案内
 - ・ショップをリストで案内
 - ・ゆう*あいショップ訪問
- ④パキスタンの様子（アル・カイルアカデミーほか）の報告
 - ・現地からの報告
 - ・グリーンコープからの視察訪問
- ⑤就労訓練の様子
- ⑥実務的なお願いなど
 - ・お送りいただく衣類の説明
 - ・伝票請求からの流れや、Q&Aなど
- ⑦賛助会員
 - ・賛助会員の会員数
 - ・賛助会員申し込み方法

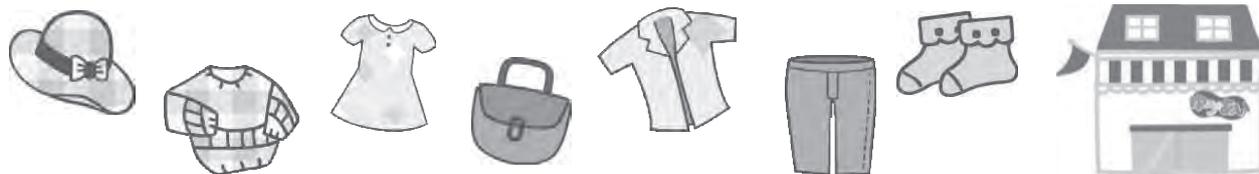


賛助会員をご希望で、

自分が賛助会員かどうかわからない方へ 今回の「通信」が届いて、「私はすでに賛助会員になっているのか、あるいは衣類を送ったことがあるから通信が届いたのか？」わからない方がおられるかと思えます。

そんな方で賛助会員をご希望の方は、8ページの案内を見て賛助会員の申し込みをしてください。二重にならないよう取り扱いをします。

また、ファイバーリサイクルセンター（P8に案内）に連絡いただければ、賛助会員かどうかすぐお調べします。



ファイバーリサイクルのホームページは、 [グリーンコープ ファイバーリサイクル](#) [検索](#)

ファイバーリサイクルセンターはどんなことをしているのか

センター長 清水清子さんに聞く（3月1日）



ファイバーリサイクルとはどのようなものか、またファイバーリサイクルセンターではどんなことをしているのか、なかなか分かりにくいというご意見をいただきます。

今回、センター長の清水清子さんにお聞きしました。

――清水さんはいつからこのファイバーリサイクルセンターにおられるのですか。



清水：私は、ファイバーリサイクルセンターができた2010年11月からここで働かせていただいています。

――ファイバーリサイクルの目的と作業の概略を聞かせてください。

清水：目的は、大きく3つあります。一つは、パキスタンのアル・カイル アカデミーの支援です。私たちはこれを国境を越えた子育て支援と言っています。二つ目は、就労訓練です。センターの作業を通じて、抱樸館福岡の入居者や生活困窮者の自立支援に向けた訓練を行なっています。三つ目は、衣類のリユースですね。このセンターでは無料で提供いただいた衣類を仕分けして、8割くらいをパキスタンに送りだしています。残りの約2割は国内、グリーンコープのエリア内で販売しています。

――衣類を提供してくださるのはグリーンコープの組合員ですか。

清水：グリーンコープの組合員が中心ですが、一般の人からの提供もあります。グリーンコープでは組合員向けのチラシや単協の機関紙などで案内しています。一般の人は組合員からの口コミ、それから福岡県内の市役所では「どこか衣類を受け付けているところはないか？」という問い合わせにファイバーリサイクルセンターが紹介されることがあるようです。ファイバーリサイクルセンターのホームページを見て送ってくださる人もいます。

――パキスタンのアル・カイル アカデミーの支援というのはどういうことですか。

清水：アル・カイル アカデミーの支援は、20年以上前から千葉県の日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）が行なっていました。JFSAは、パキスタンのカラチにあるアル・カイル アカデミーを支援しているNPOです。パキスタンでは貧富の差が大きく、多くの子どもたちは学校にほとんど行けないか、10歳くらいまでしか学校に通えない子供がたくさんいます。ゴミの

集積場のような場所に住んでいる人たちもいます。このような子どもたちが通えるような学校がアル・カイル アカ

デミーで、ムザヒル校長先生が作った学校です。グリーンコープはこのJFSAに2006年ごろ出会い、



最初は、グリーンコープの組合員に千葉県のJFSAに衣類を送るように案内していましたが、2010年にこのファイバーリサイクルセンターを福岡に作りました。

――パキスタンに送る衣類は無料提供ではなく、買い取ってもらっているそうですね。

清水：パキスタンのカラチは古着の集積場で巨大なマーケットがあります。ここから東南アジアやアフリカにも古着が流れていきます。この市場でアル・カイル

アカデミーが日本から仕入れた古着を転売して利益を得て、アル・カイル



アカデミーの運営費にしています。

――支援はどうしてカンパ（お金の寄付）ではないのですか。

清水：アル・カイル アカデミーを作り運営されているムザヒル校長先生が大事にしている考え方で「施しを受けるのではなく、仕入れたものを自ら販売することにより、自立した心が生まれる」という考えなのです。また、金銭の援助は継続できないことがあるので、事業で支えるという継続的な仕組みを作りたいということです。



――提供いただいた衣類のその後の作業を教えてください。

清水：男女別や用途種類別に72種類に分けます。その上で更に二次仕分けで、パキスタンに送るものと国内販売用とに分けます。パキスタンに送るものは圧縮して50kgずつの梱包にします。

――就労訓練はどんなことをしているのですか。

清水：就労訓練は、衣類の分別作業やパキスタンへの送り出しの作業を行ないます。そして、ファイ

バーリサイクルセンターの仕事を基本に、日によって違う仕事をしてもらっている人もいます。隣接するグリーンコープ連合の物流センターで青果リパック作業、カタログ回収の車に同乗して大分製紙への搬入作業を行う、りすの森保育園への食材配達の補助作業、GCふくおか東支部での倉庫内作業などです。

――就労訓練はどのように行なうのですか。

清水：基本は就労訓練者に寄り添って訓練します。衣類の仕分け、パキスタンへ送り出し衣類の梱包、国内販売用の衣類への値付などの作業をします。他の仕事の場合も同様に訓練者と私たちが一緒に作業しています。就労訓練の基本は週3日です。この就労訓練を通じて生活のリズムを取り戻し、身支度を整える、仲間と一緒に作業する、休む時には連絡を入れるなどの基本的約束などを学び、人とのコミュニケーションを持ち、周りの人との関係もうまくいくようになっていくことを目指しています。就労訓練を通じて本人の自信につながり、抱樸館から地域に出ることができるようになります。それに寄り添っています。



――就労訓練者の様子を聞かせてください。

清水：現在8人が就労訓練をしています。これまでに102人の訓練生が旅立ちました。アルバイトなどの職を得た人が44名、共同作業所が14名、市職員の嘱託が1名、そして高齢や病気のために生活保護を受給しながら地域で生活している人が43名です。

――衣類のリユースについて聞かせてください。

清水：皆さんから提供いただいた衣類のうち約2割は国内で再利用（販売）しています。リユースは、環境と家計にやさしい取り組みでもありますし、このファイバーリサイクルという仕組みを維持するための費用を得る仕組みでもあります。お店（ゆう＊あいショップ）は全部で12店舗です。お店以外でも単協の総代会や組合員が集まる行事に出かけて行って販売することもあります。売り上げは年間2500万円くらいです。



――ところで清水センター長はグリーンコープの組合員になられたのはいつごろですか。

清水：1990年ごろだったと思います。しばらく

して地域委員長、また支部店舗委員長などをして、1998年に組合員事務局になりました。地域委員長や支部店舗委員長の時期に福祉活動組合員基金を創設するという説明会などで、その必要性について説明するには随分苦労しました。またGCふくおかの組合員事務局の時には生活再生事業に取り組むということで説明会や地域組合員総会などで説明をしましたが、組合員から「食べ物運動に取り組む生協がどうして生活に困っている人の支援をしないといけないのか」と泣かれたこともありました。その時に「ハウスレスとホームレスの話、心の帰る家がない」話を聞き、組合員の皆さんにもこの取り組みを是非理解してもらいたいと思いました。

――ファイバーリサイクルもしくはJFSAに出会うきっかけを教えてください。

清水：組織委員会にかかわっているころ、千葉県のJFSAに「ボランティア体験」として参加しました。そこで、ファイバーリサイクルの運動を直に感じることができ、こんな仕事がしたいと思いました。また、当時はグリーンコープが千葉に送るのに高い宅配便代がかかることと、福岡に拠点を持つことにより、グリーンコープの組合員も参加しやすくなるという検討がされ、是非やりたいと思いました。

――衣類提供いただく皆さんに荷物を送る際に是非お願いしたいことがありますか。

清水：シミ・ほつれがないもの、洗濯済みのものを送ってください。受付品目にはないもの、特に布団は絶対に送らないでほしいです。「受付品目説明」が分かりにくいという意見をいただいていたので、今回分かりやすくしましたのでよろしくお願い致します。衣類は国内もしくはパキスタンで「着るもの」として販売します。日本のフリーマーケットで売られている程度のもをお願い致します。

――最後にこれからやりたいことを聞かせてください。

清水：まず、年間85トンの衣類が集まってほしいと思っています。現状は約60トンです。パキスタンに送る衣類は1回23トンですので、85トン集まると年間3回送り出せます。それから現在600名弱のファイバーリサイクル賛助会員が3000名程度になるようにしたいですね。最後に一般就労を果たした訓練者が長く働けるようなフォローができると良いと思っています。



――ありがとうございました。

アル・カイル アカデミーとパキスタンについて

GC かがしま副理事長 川上由美子さんに聞く（3月14日）

2015年7月29日からグリーンコープの訪問団5名がパキスタンのアル・カイル アカデミーなどを訪問しました。訪問団のメンバーのGC かがしま副理事長の川上由美子さん取材させていただきました。川上さんは、3月まで副理事長で、4月からゆう＊あいショップを担当されています。

――パキスタン訪問は、どんな行程だったのですか。

川上：夜中に着いて、丸4日間パキスタンにいました。

訪問したのはアル・カイル アカデミーの本校と分校、それからグリーンコープのファイバーリサイクルセンターから送った荷物の荷降ろしの立ち会い、



バザール（市場）の視察、縫製工場、古着を仕分ける大きな会社の視察、関係者の会社などを訪問しました。いずれも移動に相当時間がかかるため、その分、車窓からカラチ周辺のいろいろな様子を見ることもできました。

――アル・カイル アカデミーはどんな場所にあるのですか。

川上：本校は日干し煉瓦でつくられた家が続くスラム街の中にあります。パキスタンでは戸籍制度も義務教育制度もなく、5歳くらいから15歳くらいまでの10年間と予科2年の後に大学に進む制度のようです。スラムの子どもたちが教育を受けられるように無料の学校アル



・カイル アカデミーが作られたのです。本校は2部制です。午前中だけ授業を受ける子どもは午後働いているし、午後に授業を受ける子どもはその逆です。

本校はおよそ2700人くらいの子どもたちが学んでいます。イス



と机がある教室とカーペットなどを敷いている教室があり、小さな子どもたちはカーペットの教室に直接座って授業を受けます。先生は120～130人くらいですが、この先生たちが分校にも出向いて授業をしています。

――ではアル・カイル アカデミーも同じ年齢の子どもが通うのですか。

川上：子どもたちは小さいころから家庭を助け、いろいろな仕事をしています。子守もその一つです。

だからアル・カイル アカデミーでは、5歳以上の子どもを学校に受け入れるために、3～4歳の子ども



も受け入れてその子たちのために授業も行っています。残念ながら、上の学年に行くほど男の子が減り、10歳を超えるとほとんどの子どもは働くこととなります。進級は年齢ではなく試験です。10年生（年齢でいえば15歳）まで終わるとマトリックという共通試験を受けます。

――アル・カイル アカデミーの子どもたちは生き生きと勉強しているのでしょうか。

川上：アル・カイル アカデミーの子どもたちは公立学校に通った

子どもたちより成績が良いそうです。公立学校の子どもたちは平均55点程度ですが、アル・



カイル アカデミーの子どもたちは65点くらいだそうです。公立学校も無料なのですが、先生の給与が安くてバイトに忙しいというような事情もあるようです。マトリックに合格して2年間の予科学校に行くと大学や専門学校に進学できます。現在卒業生がカラチ大学（注：日本の東大に相当）に6人通っており成績も良いということでした。

――少し前にグリーンコープでは組合員にカンパを呼び掛けて発電機を贈りました。

川上：パキスタンでは計画停電もあり、電力供給が不安定なので発電機をカンパで贈りました。電力事情は更に悪くなっており、不意の停電が増えて、発電機がとても役立っているということでした。

――分校はどんなところにあるのですか。

川上：カチュラクンディというところにあります。カチュラはごみ、クンディは場所という意味で、本当にゴミ山の中にありました。もともと砂漠のよう



なところに人々がゴミを捨て始めて巨大なゴミ捨

て場になったようです。このゴミの中から、少しでもお金になるものを拾い出して生活する人たちが数千人住みついています。分校は、キャンパスⅡ・キャンパスⅢの二つの施設があります。キャンパスⅡはカチュラクンディの中ほどにあり、300人くらいが学んでいます。3歳児から低学年クラスがほとんどで、それ以上の年齢の子どもはキャンパスⅢに通うことになります。キャンパスⅢはカチュラクンディの入り口にあり、500～600人くらいが学んでいます。ここにはカチュラクンディだけでなく周辺の村の子どもも通っています。良い教育が受けられるということで、4～5km先から歩いてくる子どももいるようです。

――分校の様子をもう少し聞かせてください。

川上：キャンパスⅡは周辺がゴミの山です。乾燥しているので腐敗臭はあまりしないのですが、ごみを燃やす煙の臭いと煙がモヤのように立ち込めている感じです。煙の立ち込めるゴミの山の中で、水牛・ヤギ・羊などが飼われていました。キャンパスⅡ・Ⅲの先生たちは本校からバスで通ってきます。授業は午前中だけです。



――縫製工場は学校の中にあるのですか。

川上：本校の中にあります。卒業した女の子たちの働く場所を作りたいということで、工業用ミシンが10台ほどありましたが、仕事がありませんでした。

――ファイバーリサイクルセンターから送った古着の荷降ろしに立ち会われたそうですね。

川上：荷降ろしに立ち会えるスケジュールで訪問しました。通関手続きも終わり、古着を倉庫に降ろす作業に立ち会いました。6人で3時間弱で降ろし、倉庫の中に古着を種類ごとに並べていく様子を確認しました。



――ムザヒル校長先生と、これからやりたいことなどを話されたそうですね。

川上：校長先生のお宅に泊めていただいたこともあり、お考えをいろいろ聞かせていただきました。良い先生を確保したいということでした。低学年の子どもはアル・カイル アカデミーで10年間学んだ生徒が教えることもできるが、高学年の子ども、それから予科学校などで教えるのは大学を出た先生が必要、そのためには一定の給与を保障する必要があるということでした。それから慢性的な水不足なので、井戸を掘るか数百メートル先

まで来ている水道につないで水を確保したいということでした。これ以外にも回収した古紙でボール紙を作る、生ごみをたい肥にするなど、資金稼ぎの副業をいろいろと考えておられるようでした。

――アル・カイル アカデミーの印象、これからグリーンコープとしてできることなどお聞かせください。

川上：厳しい環境にあるのですが、キャンパス内は整頓されていて、子どもたちは一生懸命授業を受けていました。3歳ぐらいの子どもも座って先生の指示に従っていました。今いる場所で懸命に生きようとしていると感じました。アル・カイル アカデミーが水の確保に苦労されていたので今度の訪問団のメンバーと「グリーンコープが行なった発電機のカンパのお金の残りが役に立ると良いね」という話をしました。縫製工場の仕事が無いようだったので、何かできないかと思いました。その後、グリーンコープの福祉ワーカーズがエプロンをまとめて発注していますが、グリーンコープで販売できるような衣類や小物で何か提携できないかと考えています。現地で布地を購入してきました。日本で売れるような、衣類や布小物・袋物の試作をして組合員の意見を聞き、商品の提案ができればいいなと思っています。

――訪問を通じて感想などがありましたらお願いします。

川上：カラチが古着市場ということで、今は古着を送るという支援ですが、アル・カイル アカデミーとは、民衆交易の関係ができれば良いなと思っています。訪問前は女性の権利があまりない聞いていました。女性を人前に出さないということですので、私たちの食事のときも同席した男性陣がサービス全般を受け持ち、細やかに動き、よく働いていました。チャイ（ミルクティー）も男性が準備してくれます。古着商のワリーさんという人がいるのですが、奥様の具合が悪くて仕事を休んで看ているということでした。男女の役割のあり方が今の日本と違うだけで、簡単に男尊女卑とは言えないと感じました。また、カラチは砂漠ですが、広い国土にはいろんな地形や気候を含んでいるようで、お米や小麦・野菜や果物はバリエーションに富んでいます。小麦で作る薄焼きのパンも種類が多く、お米も普通の長粒種から“パスタを折ったのか”と思うほど長いものまで料理によって使い分けられていました。さまざまな香辛料やハーブを使い分けた料理に文化の奥深さを感じました。一方的に援助するという関係ではなく、文化を知りあって、対等に長い付き合いができれば良いと思いました。

――ありがとうございました。

ゆう＊あいショップ訪問 その①

GCふくおか ゆう＊あいショップ藤崎店を訪問しました(3月18日)



ゆう＊あい藤崎店は、グリーンコープ藤崎店のバックヤードだった場所を改装して作ったそうです。福岡市営地下鉄藤崎駅から歩いて5分、藤崎商店街



の中ほどという立地です。グリーンコープのお店部分とゆう＊あいショップは内部でつながっており、それぞれでの買い物を楽しみやすい造りになっています。

労働協同組合ゆう＊あい福岡代表の田原幸子さんと藤崎店の鶴田佳子さんに、ゆう＊あい藤崎店のことだけでなくGCふくおかでのゆう＊あいショップ全般についてお聞きしました。

—このお店はいつできたのですか。

田原：2014年5月にできました。ゆう＊あいショップの開店できる場所はそれまでにもさがしていたのですが、藤崎店の横が空くというので出店させてもらいました。

—作業スペースにかなり使っているようですが。

田原：現状で4割くらい作業スペースになっています。ここがGCふくおかのゆう＊あいショップの拠点になっており、ここで衣類を管理して複数の



お店に送り出しています。久留米南町店の横にもゆう＊あいショップがあり、在庫衣類を持っています。お店としては、藤崎店、久留米南町店、ひまきの店(福津市)、下月隈店(福岡市)の4店で、

それ以外は、唐人町店、キープ&ショップ横浜(以上福岡市)、いとしま店(糸島市)、清水(きよみず)店(北九州市)、甘木店(朝倉市)、高雄店(太宰府市)、福祉用品店舗こまらんど(大牟田市)に常設しています。更に店舗や支部でのイベントなどにも出かけています。

—売り上げはどれくらいですか。

田原：ゆう＊あい藤崎店で移動販売(臨時の出店)も含めて1か月約30万円、全ショップ合計で年間約800万円の売り上げです。もう少したくさんの方にご利用いただきたいと思います。

—衣類提供の受け付けもしているのですよね。

田原：GCふくおか全体で年間約2000件、13トンくらいの受付をしています。GCふくおかのゆう＊あいショップで売れるものは売り、それ以外はファイバーリサイクルセンターに送っています。

—このゆう＊あい藤崎店は、お客さんは組合員が中心ですか。

鶴田：組合員と一般の方が半々ですね。外国の方もよく来られますよ。それから衣類の持ち込みをされるのは6割くらいが組合員です。

—これからやりたいことなどを聞かせてください。

鶴田：ゆう＊あい藤崎店では、作業スペースを広く取りすぎているので、売り場を広げたいと思っています。お客さんで高齢の方も来られるので、テーブルとイスを置いて、ちょっとくつろげる場にもしたいと思います。GCふくおか全体でいえば、地域ごとに衣類を持ち込めるような仕組みを実現したいですね。また、労働協同組合ゆう＊あい福岡でキープ&ショップの運営を2か所受けているのですが、キープ&ショップに併設して売り場を作りたいです。そして、なんといってもこのファイバーリサイクルの取り組みを理解して衣類の提供や利用をしてくださる人を一人でも増やしたいですね。

—ありがとうございました。



田原幸子さん(右)と
鶴田佳子さん

お送りいただきたい衣類等と送り方案内



お送りいただきたい衣類など

以下、特に断りがない場合は、新品・中古とも受け付けています。衣類は国内もしくはパキスタンで「着るもの」として販売しますので、日本のフリーマーケットで売られている程度のもををお願いします。
中古品を送る場合、必ず洗濯をお願いします。

●男性用衣類

上衣

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ズボン（長ズボン、短パン、スウェットパンツ） ・Gパン ・カッターシャツ（長袖、半袖） ・カジュアルシャツ（長袖、半袖） ・ポロシャツ（長袖、半袖） ・Tシャツ（長袖、半袖） ・トレーナー | <ul style="list-style-type: none"> ・セーター ・スーツ（上下セットのみ、ネーム入り可） ・ジャンパー ・ジャケット（スーツの上着のみは不可） ・ベスト ・コート ・ネクタイ（新品に限る） |
|---|--|

下着

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・半袖シャツ ・ランニング ・ブリーフ ・トランクス | <ul style="list-style-type: none"> ・長袖シャツ（新品に限る） ・靴下（新品に限る） ・パジャマ（新品に限る） |
|---|---|

男性衣類で受付できないもの

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・作業着 | <ul style="list-style-type: none"> ・スーツの上着 |
|--|---|

●女性用衣類

上衣

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・Gパン ・ズボン（長ズボン、スウェットパンツ） ・ブラウス ・カッターシャツ（長袖、半袖） ・カジュアルシャツ（長袖、半袖） ・Tシャツ（長袖、半袖） ・トレーナー | <ul style="list-style-type: none"> ・セーター ・ジャケット（スーツの上着のみは不可） ・ジャンパー ・ベスト ・コート ・ワンピース |
|---|--|

下着

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジャー（中古も可） ・ガードル（中古も可） ・ボディスーツ（中古も可） | <ul style="list-style-type: none"> ・これ以外の下着（ストッキング・靴下・ショーツなどは新品のみ受付です。） |
|--|--|

ねまき

- ・パジャマ（新品のみ）※ネグリジェは受け付けていません。

女性衣類で受付できないもの

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・スカート・キュロット・スーツ（上下とも）は受け付けていません。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジャー・ガードル・ボディスーツ以外の下着は新品のみ受付です。 |
|--|---|

●子ども用衣類

- ・新生児～120cm（夏冬とも新品・中古とも受け付けています）
- ・120～160cm（夏冬とも新品に近いものを受け付けています）
- ・下着類
- ・布おむつ・おむつカバー

●衣類以外

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・毛布 ・タオルケット ・シーツ ※布団・マットは受け付けていません。 ・布地（2m以上のもの、反物可、ハギレ不可） ・テーブルクロス ・カーテン・レースカーテン ・タオル・バスタオル・ハンダタオル ・ハンカチ（中古も可） | <ul style="list-style-type: none"> ・スカーフ、ストール、マフラー ・エプロン（新品のみ） ・ベルト ・靴（学校上履きは不可） ・バッグ・リュック（ランドセルは不可） ・財布 ・ポーチ ・手袋 ・帽子 ・毛糸（新品のみ） |
|---|---|

●和服類

- ・和服・帯（正絹・麻・綿のみ。ウール・化繊は不可）
- ・ゆかた（寝間着は不可）
- ・和装小物（帯☆・帯揚・帯留め・バッグ等）
- ※和服類は国内でそのまま販売しますので、シミ・汚れのあるものは受付できません。

●受付できないもの

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・制服、事務服、作業着 ・スキーウェア ・柔道着 ・カウチン ・学校上履き ・水着 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねまき（パジャマの新品のみ受付、その他のねまきや中古のパジャマは受け付けてできません） ・布団・枕・クッション・マット類 |
|--|--|

※未使用切手・ハガキ、書き損じハガキ、プリペイドカード、テレホンカード等も受け付けています。

送り方

（専用送り状代金 600 円は自己負担です）

グリーンコープ組合員の場合

ヤマト運輸がご自宅まで集荷に伺います

1、共同購入申込書の

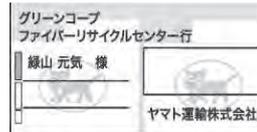
9988 で申込み



※この時点で、600 円が請求されます。



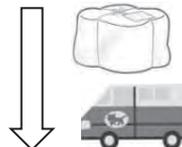
2、ヤマト運輸からご自宅にファイバーリサイクル専用送り状をお届け（申し込みから数日で）



お届けする専用送り状には、ファイバーリサイクルセンターの宛先情報と、申込者（組合員の住所や氏名）が印字されています。貼付するだけで出荷できます。

A：衣類等の荷物が用意できていれば、その場で受け取ります。

B-1：荷物が用意できていなければ、伝票を受け取ります。



B-2：後日改めてヤマト運輸に連絡して集荷をしてもらう。（90日以内に）

3、ファイバーリサイクルセンターに荷物が納品されます。

グリーンコープの店舗組合員、グリーンコープのエリアにお住いの組合員でない方

上記で説明の「ヤマト便の送り状システム」が使えます。ファイバーリサイクルセンターにお申込みください。お支払いは後日お送りする郵便振替用紙をお願いします。

それ以後の仕組みは、上記の「グリーンコープの組合員の場合」と同様です。

梱包の仕方

（1個600円の送料がかかります）

二重にしたポリ袋、または紙袋に入れ、ひもで十字にしばってください。



重さ：25kg以内

大きさ：タテ+ヨコ+高さ=160cm以内

※段ボールには入れないでください。段ボールだとファイバーリサイクルセンターで荷崩れを起こします。

グリーンコープのエリア以外にお住いの皆様

宅配便を使ってお送りください。

宅配便の会社はヤマト運輸でもそれ以外でも構いません。それぞれの宅配運賃は出荷される皆さんの自己負担となります。

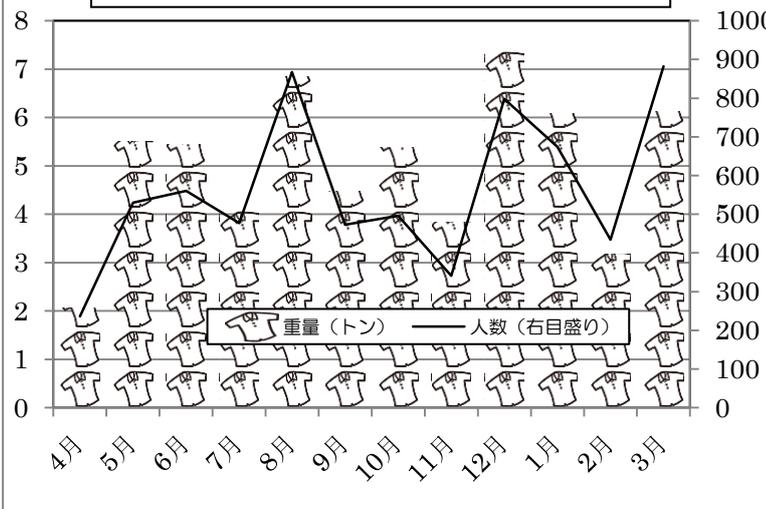
ファイバーリサイクルセンター、ゆう*あいショップへの持ち込み

直接持ち込みも受け付けています。ファイバーリサイクルセンターもしくは、ゆう*あいショップにお問い合わせください。

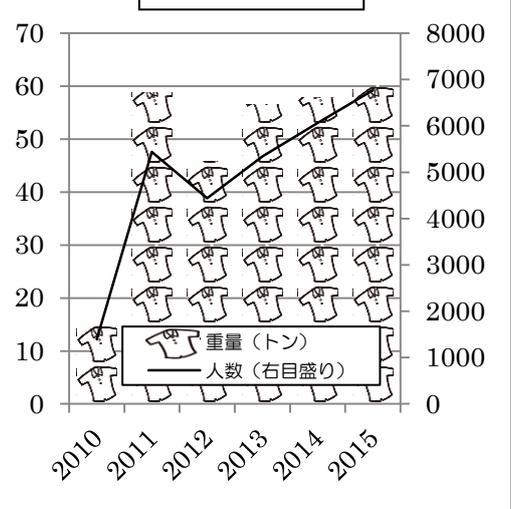
お送りいただいた衣類の量と人数の推移

3月末日現在の累計重量294,285kg
延べ人数28,052人

2015年度に衣類をお送りいただいた人数と量



年度ごとの推移



ゆう*あいショップの案内

	ショップ名	住所	電話番号	運営主体	営業日	営業時間
福岡県	センター内ショップ	福岡市東区多の津1丁目17-2	092-623-0294	※FRC	月~土	11時~17時
福岡県	香椎店	福岡市東区香椎駅前2丁目52-1 セビアテラス西鉄香椎 2階	080-1530-8955	※FRC	月~土 (月曜日の祝日休み)	10時30分~17時30分
福岡県	藤崎店	福岡市早良区高取1丁目3-25	092-845-3331	GCふくおか	月~土	11時~17時
福岡県	久留米南町店	久留米市南4丁目27-31	0942-21-7800	GCふくおか	火~土	11時~17時
福岡県	ひまきの店	福津市日蔭野1丁目15-2-103号	0940-62-6006	GCふくおか	火~土	11時~18時 (土曜は15時まで)
福岡県	下月隈店	福岡市博多区東月隈3丁目3-9	092-504-6100	GCふくおか	火~金	11時~18時
佐賀県	本庄店	佐賀市本庄町本庄575-4	0952-27-3177	GCさが	月~土	11時~18時30分 (土曜は17時まで)
大分県	自由自在店	大分市大字寒田415-1	097-569-5929	GCおおい	月~土	10時~17時
大分県	高城店	大分市高城西町32-36	097-535-7054	GCおおい	月~土 (木曜休み)	11時~18時 夏期 (4~10月) 11時~17時 冬期 (11~3月)
熊本県	三里木店	菊池郡菊陽町津久礼2972-33	096-233-3741	GCくまもと	火~土	10時~18時
鹿児島県	谷山店	鹿児島市東谷山7丁目25-7	099-263-3335	GCかごしま	毎日	10時~19時
鹿児島県	枕崎店	枕崎市港町22	0993-73-5878	GCかごしま	火~金	13時~18時30分

※FRCは、ファイバーリサイクルセンターの直営です。
年末年始などの休みは、それぞれのお店に直接ご確認ください。

ファイバーリサイクル賛助会員と会費について

ファイバーリサイクル賛助会員募集中

賛助会員を募集しています。
会費は年間2000円です。
賛助会員には、ファイバーリサイクル通信をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員のお申し込みは、
共同購入申込書の9020で申し込みください。
申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して
引き落としとなります。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されます
ので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーン
コープの共同購入組員の場合)

一般の方、グリーンコープの店舗組員

2000円を郵便振替で下記にお振り込みください。
郵便振替でお願いします。

郵便振替 01740-8-125558

ファイバーリサイクルセンター

下記のファイバーリサイクルセンターに電話をいただ
けば郵便振替用紙を郵送させていただきます。

ファイバーリサイクルセンター
〒813-0034

福岡市東区多の津1丁目17-2
ファイバーリサイクルセンター
電話 092-623-0294